

登録コード	HM110800	開講年度	2026						
授業題目	呼吸器・感染症・アレルギー内科学特別研究					担当教員	花岡 正幸 他		
英文授業名	Research Thesis in Respiratory, Infectious, and Allergic Diseases					副担当	牛木 淳人・北口 良晃・和田 洋典・曾根原 圭・小松 雅宙		
単位数	10	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生			
講義室				授業形態	演習	備考			
信大コンピテンシー	該当								
(1)授業の達成目標/course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄					(授業の達成目標)			
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加								
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能 ⇄					呼吸器・感染症・アレルギー内科学に関する研究理論を理解して、研究手法を実践できるようになる。			
(2)詳細/Detailed information	呼吸器・感染症・アレルギー内科学の研究を遂行するためには、研究理論の理解と研究手法の習得が不可欠である。実際の演習を通して知識・技能を習得し、研究の推進および発展に役立てる。								
(3)授業の概要/Overview of course	呼吸器病学、呼吸器感染症学、アレルギー内科学における独創的な研究を遂行するために必要な最新の知識と研究手法について講義する。さらに演習をおこない実践的なツールとして習得させる。								
(4)授業計画/Course plan	【オムニバス方式】 (花岡正幸 教授/15回) 1) 気道系疾患、特に喘息およびCOPDにおける気道炎症、気道リモデリングの病態解明についての細胞生物学的研究、胸部画像の解析方法などを指導する。2) 高地肺水腫の遺伝学的検討を行い、発症機序について解析する。3) 各種肺疾患における肺循環動態を検討し、病態の解析、治療法の検討をおこなう。4) 薬剤性肺障害における遺伝学的異常を検討し、発症機序の検討をおこなう。 特に、遺伝学的研究の解析方法について概説しこれらを実習させる。分子細胞遺伝学の基礎的事項の概説、遺伝子多型についての概説と理解および臨床的意義について学ばせる。核酸（ゲノムDNA）の精製、解析方法の実際を実習する。その解析結果と臨床データとの解析法を指導する。 (牛木淳人 准教授/15回) 1) 肺非結核性抗酸菌症の診断、治療に関する臨床研究を行い病態の解明、新規治療法の検討を行う。2) ニューモシスティス肺炎の診断・治療に関する臨床研究を行い病態の解明を行う。3) 各種ウイルス感染症の診断・治療に関する臨床研究を行い病態の解明を行う。 (北口良晃 准教授/15回) 喘息・COPD等の閉塞性肺疾患およびその類縁疾患（喘息・COPDオーバーラップ、気腫合併肺線維症）に対する胸部CTにおける客観的評価および視覚的評価によるフェノタイプ分類、オシレーション法による呼吸インピーダンスの測定、発症に関与する遺伝子の検索等を指導する。 (和田洋典 講師/10回) 肺疾患に伴う肺高血圧症に対し、その発症メカニズムの遺伝学的解明や遺伝子診断、分子標的薬の治療効果解析の臨床研究の立案・実施を検討する。 (曾根原圭 講師/10回) 呼吸器系の悪性腫瘍に対し、腫瘍マーカー、炎症マーカーを用いた予後因子の解析、免疫チェックポイント阻害薬を含む抗癌剤治療効果の後方視的解析に関する臨床研究を立案・実施する。 (小松雅宙 助教/10回) 種々の間質性肺疾患、特に特発性間質性肺炎、膠原病関連間質性肺炎、サルコイドーシス、IgG4関連呼吸器疾患などの臨床的蓄積を基にデータの解析と病態解明を進める。								
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	すべての講義終了後には、授業内容に関連したレポートを課す。(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。								
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	本演習は呼吸器・感染症・アレルギー内科学における研究手技・手法を満遍なく学ぶよう計画されており、授業内容にも関連性がある。毎回の授業の最後に、次の回につながる課題を出す。その課題はそれまでの授業内容を使えば答えを出せるようになっている。必ず答えを作成して提出すること。それは授業後に回収する。								
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	演習中あるいは演習終了直後の質問は随時受け付ける。それ以外の場合は、各教員と直接連絡を取り、質問・相談時間を設定すること。								
(8)授業の形式/Course format	適宜、配布資料を用いる。授業内容に関連性があるので、演習終了後は知識・技能の習得のため、十分に復習すること。								